

## 股野儷子(またのれいこ)先生にうかがう 『はじめての英語セット』 Q&A

『はじめての英語セット』には、実践的で将来役に立つ英語の基礎を身につけるための様々な工夫があります。今回は『「和」の行事えほん 春と夏 の巻 / 秋と冬の巻』の英語翻訳版である“Annual Events in Japan Spring and Summer / Autumn and Winter”(絵本の家出版)の訳者でもある股野儷子先生に、小学校英語教育の専門家の観点からこの教材をご覧になった感想を Q&A 方式でうかがいました。

子どもの英語教育現場でのご経験や、外交官夫人として約 15 年にわたりインドネシア、アメリカ、イギリス、ブラジル、中国、ベトナムそしてスウェーデンで過ごされたご体験をもとに、グローバルな視点で教材の特長を見ていただきました。

### 股野儷子先生プロフィール

NPO 法人小学校英語支援協会理事、元財団法人津田塾会・津田英語会英語講師。  
東京都練馬区立小学校の英語活動担当や東京都港区の「国際人育成を目指す教育推進委員会」委員などを歴任。港区国際教科書「ENGLISH for the World」の編集にも携わった。

現在、星槎大学 非常勤講師、筑波大学視覚特別支援学校 小学部 非常勤講師、港区立東町小学校 学校評議員・スーパーバイザー。

第 43 回、51 回読売教育賞「外国語教育」最優秀／優秀賞受賞。著書に『アメリカ小・中・高校教育マニュアル』(共著、日本経済新聞社)ほか。

**Q1：子どもたちが未知の言語(=英語)に初めて触れ、学んでいくときに、音の出るペンで絵や文字にタッチするだけでネイティブスピーカーの発音が聞けるこの教材は、どのような効果や利点があると思われますか？**

**A1** 例えば、タイ語やアラビア語のように、文字も単語も全くなじみのない言語に触れる時、同じ「音が出る教材」でも、「本(絵や文字)」と「音声(テープやCD)」が別のものであれば、大人でも独学で「絵や文字」と「音」を一致させ、「意味を理解する」のは難しいことです。いくらネイティブスピーカーの「良い音」を聞いても、同時にそれ相当の視覚からのインプットがなければ、「小鳥のさえずり」に終わってしまいます。

その点、「セイペン」で絵や文字に触れると、「それ」を示す英語の音が同時に聞けるこの教材は、特に好奇心豊かな子どもたちには、母語を学ぶ時と同じような利点と効果があるのではないのでしょうか。お母さんが幼児に言葉を教える時、本物やぬいぐるみの、あるいは絵や写真の「猫」を示しながら、「ネーコ」と教えます。空で「ネコ、ネコ」と音だけでは教えませんね。それと同じです。

言葉の学習には、視覚、聴覚からの同時インプットが大切です。「目で聴いて、耳で見る」を心がけましょう。

**Q2：シンプルでもきちんとした文章に触れる『はじめての英語セット』は、単語や挨拶の型を覚える学習方法と比べ、どのような違いや効果があると思われますか？**

**A2** 主な違いは、「英語文の応用、発展へと広がっていく基礎が身につく」「英語話者のような発想ができるようになる」ことではないでしょうか。

「日本語」と「英語」の大きな違いの一つは「語順」です。日本語は「SOV」の順、すなわち、主語があり、次に目的語や説明、最後に一番大事な動詞が来て「肯定・否定」も決めます。英語は「SVO」の順で、まず初めに大切なことを決めて、後に説明が続く…。また命令文以外は「主語」を省いてはいけません。意図して「倒置法」でも使う時以外は、数、形、色などの「形容詞」の順さえ決まっている。「て・に・を・は」があるため、主語を省いたり、語順を変えても意味の通じる日本語とは大きな相違点があります。「語順の違い」は「文法」の違いだけではなく、文頭で決めるか文尾まで待つか、「意思表示の仕方」の違いにも通じる面がありますね。

「文章」ではなく「単語」だけで学習すると、まず日本語で「文」を考え、知っている「英単語」を当てはめていき、結局英米人には「通じない英文」になってしまう。これは英語学習入門期には、日本人の大人にも子どもにも共通してみられる傾向です。たとえば、「テーブルの上のコップ」は、“table on a glass” となりがちで、「それじゃ割れちゃう」と笑うこともしばしばです。英語の“on”は前置詞で、日本語の「上に」は後置詞の違いですね。

文章の中で、“on the table” など情報を「まとまり」として扱うことを「チャンク」と呼び、こうして覚えると、脳への負担を減らして定着しやすいと言われていています。まず単語を覚え、それを使って英文を組み立てるより、文章として覚えた方が、英文が「かたまり」の集合体として口から出るようになります。実際の「会話」にも役立ちます。

それぞれ文化、言語の違う7カ国に生活したことがあります。英語学習で習得した「SVOの物差し」— “Sentence Scale” と名付けているのですが — が、ポルトガル語やスウェーデン語はもとより、中国語を学ぶのにさえ大いに役立ちました。動詞の活用や形容詞の場所など、多少の違いはありますが、原則この「物差し」に単語を当てはめていけばよいのですから。

母語の日本語で習得した「SOVの物差し」に加えて、この「SVOの物差し」を身につけておくことは、将来第2外国語を学ぶ時の大きな強みとなるでしょう。

**Q3** : テキスト絵本は 1 冊から 36 冊まで計 36 冊ありますが、1 冊ずつ、順番通りに子どもたちに与え学習を進めていく方法が良いのはなぜですか？

**A3** このセットにつけられている詳しい『『はじめての英語セット』活用術』に加えて、「英文法」を教える英語教師の視点から見ても、36 冊の本は良く計算して作成されているように思います。

たとえば、「be 動詞」に注目すると、テキスト絵本①、②ではまず、「～は\_\_です」という「断定」を示す“SVC”の形で出てきます。こうした働きを示す be 動詞は、アメリカの小学校 1 年生では“linking words”(結びつける言葉)と呼ばれています。テキスト絵本①の“I am a doctor.”は、「私」と「医者」が結びつき、「私＝医者」と内容も具体的で分かりやすいシンプルな文章から学んでいきます。

テキスト絵本③になると、同じ be 動詞でも、「～は\_\_にあります・います」という「存在」を表す“SV”の形で出てきて、“in, on”など前置詞を使って、場所を示す「句」を「かたまり」として覚えるようになっています。そして、Q2 でもお話したように、肯定文から否定文、疑問文へと自然に、順を追って難度を増して発展していくように工夫されています。したがって、テキスト絵本 1 から始めて、1 冊の本をある程度学んでから次の本に進む方が、効果的に自然に英語が身につくと考えられます。

でも、単語を学ぶだけ、あるいは興味のあるジャンルの単語(たとえば動物)を知るのが目的なら、どの本から「セイペン遊び」をしてもよいでしょう。「知りたい時が、教え時。知りたい時が、覚え時！」ですから…。ただし、手当たり次第に「絵の音声化」だけを面白おかしく楽しむ使い方や「読み散らし」だけで終わらせるのは避けたいものですね。

**Q4** : 小さい子どもの時ほど、良質の英語に十分に触れる必要があるのはなぜですか？ 英語の勉強をすすめていく上で、将来どんな効果がありますか？

**A4** 小学生に「色」を教える時、いつも次のような導入方法を試んでいます。

- ①何の説明もせず、「虹の歌」(red, yellow, pink, green, purple, orange, blue の 7 色が歌われる)のテープを 1 回聞かせる
- ②2 回目は、テープを聞きながら 12 色の色鉛筆のうち、聞こえた色の鉛筆を取らせる
- ③取った色鉛筆に触りながら 7 色の確認と、口頭練習をする
- ④もう 1 度テープを聞かせると、1 回目はよく聞き取れなかった児童も「あっ本当だ。言っている。聞こえた！」と驚く

英語塾や、区立の小学校、視覚特別支援学校などいろいろなところで試みましたが、共通して興味深い結果が出ました。低学年の方が多くの色鉛筆を取る。同じテープを同じ速度で聞かせても、6 年生の方が「早すぎる。もっとゆっくりまわして…」と注文を付けてくるのです。

また、英語圏へ海外転勤した家族からは、「下の子の方が早く言葉を覚えて、発音もよい」と、共通した経験談を聞きます。「言語習得における臨界期」などいろいろな研究もなされていますが、教室や家庭内での身近な経験からも、子どもは年齢が低いほど「よく聞き取れ、その音を上手に真似ができる」と言えるのではないのでしょうか。

一方、このような経験もしています。「虹の歌」の中の色のうち、子どもたちが一番上手に発音できるのは、何色だと思われますか？“Purple”です。「なじみのない難しい色」のはずなのに、不思議ですね。「レッドカード」「イエローカード」など他の色は日ごろ日本語の文脈の中で耳にしているものばかり…。「上手にたやすく言えるはず」と思いがちですが、意味は知っていてもかえって日本語式に「レッド、イエロ、グリーン、オレンジ」となってしまいます。“Purple”は日常ほとんど聞いたことがなく、初めて聞いた音が「ネイティヴスピーカーの音」なので、ほかに真似のしようがなく、テープのとおり「ポーポー」に近く発音するのだと思われます。

こうした経験を総合すると、まだあまりカタカナ英語に触れておらず、良い聴力を持ち、聞き取った音をたやすく真似出来る「小さい時ほど、良質の英語に触れる」意義があると考えられます。そうして口頭(oral)練習や、聴覚(aural)を通して身につけた基礎能力を土台に、新しい語彙を増やしていけば、「英米人に通じる英語」が身につくのではないのでしょうか。

**Q5** : この教材では、楽しいメロディーを付けた歌で文章を覚えることが出来るようになっていきます。子どもたちにとって歌で覚える学習方法にはどのような効果があると思われますか？

**A5** ただ歌詞を唱えるだけで暗記するより、メロディーやリズムに乗せて覚える方がやさしいことは、子どもだけではなく大人でも経験したことがおありでしょう。

試しにアルファベット 26 文字を歌わず唱えてみて下さい。次にメロディーを付けて歌ってみて下さい。歌う方がずっと楽に次の文字が出てきますね。「虹の歌」の 7 色も同じように試してみると、納得できます。

小学生のクラスでも、「曜日の名前の順」を忘れてしまっても、学んだ歌の「メロディーのヒント」を出すだけで、「ああ、Sunday, Monday …」と歌い出します。まず「歌で覚える」のは、効果的な導入方法です。

ただ留意していただきたい点もあります。日常、学習の場以外でも歌われている“ABC”や“Happy Birthday”の歌などと違って、この教材の歌に初めて触れる子どもには、内容に全くなじみのないこともあるでしょう。たとえば、各本の表紙の音楽マークにセイペンで触れて「歌」を全部聞き、「なんにも分からな〜い！」と諦めたりしないように、ちょっとした気配りが必要です。Q4の「虹の歌」の導入についてでもお話したように、本の各ページの「絵と音」に触れ、単語を学び、内容を理解してからもう一度全体の歌を聞くと、内容が良く聞き取れて意味も分かり、「あっ、本当だ。言っている。聞こえた！」と満足感を味わえます。お子さんには、ぜひこの「達成感」の経験をさせてあげて下さい。「単語を知っていると聞こえるんだ。分かるんだ。もっとやってみた〜い！」と学習意欲継続へのエンジンがかかります。

**Q6** : この教材では、初めに覚える基礎重要単語 51 語が設定されています。テキスト絵本にある文章はすべて、その基礎重要単語をもとに作られています。この基礎重要単語とはどのような言葉ですか？なぜ初めに学ぶ必要があるのですか？

**A6** 英米の小学校では、本を読む前段階として、「フォニックス」と呼ばれる方法でアルファベットの「文字と音」の関係を学びます。1 文字 1 音の基本音から始め、子音字、母音字の組み合わせで「新しい音」のできるいくつ

かの「ルール」を学び、初めて見る語も、ルールを当てはめ、類推して読めるようになる学習方法です。アメリカでは小学校3年生までにゆっくり丁寧に教え、“successful reader”を育てることを目標にしています。

そうした過程の中でも、子どもたちが日常よく目にする機能語(function words:文中の語と語の文法関係を示す語で、前置詞、冠詞、接続詞、助動詞、疑問詞など)や意味語(content words:事物の名称、様態、動作、状況を示す語で、名詞、形容詞、動詞、副詞など)は、“sight words”として、フォニックスのルールに関係なく「ひと目で見てすぐ読める語」として別に教えられます。このセットの基礎重要単語51語は、Dolch Sight Word Listの主にPreprimer(入門前)、Primer(入門)の項に載っている機能語と重なります。テキスト絵本の本文で取り上げられている色、数、動詞などの意味語も、このリストに見られます。子どもの世界の身近な単語選択だけでなく、「文字表記の単語を読む力」の観点からも、適切な語が選ばれていると考えられます。

**Q7：この教材は、セイペンを使って自主学習ができますが、小さなお子様の場合はまず大人と一緒に学ぶのが良いと思われるのはなぜですか？**

**A7** 幼児が初めて言葉(母語)や文字を覚える時、お母さん、お父さんのお膝で学びますね。『はじめての英語セット』もまず、お母さん、お父さんと一緒に開くのがよいでしょう。Q1やQ3でお話したように、「絵や文字と音を有意に一致させること」「読み散らかしにしないこと」を目指すには、特に最初は大人の手助け、気配りが必要です。また、日本語にはない“th”( /ð/ /θ/)や“f”や“v”の音を出す口の形のヒントを見せる「音の可視化」も大切です。

でも、ご家庭ではついついこうした教材を「ベビーシッター」や「おもちゃ」代わりにしてしまいがちです。そうした時、「おばあちゃまやおじいちゃまと一緒にゆったりと学ぶ」のも楽しいでしょう。「孫と英語？ 発音に自信がなくて、とてもとても…」との声が聞こえてきそうですが、そこは「セイペン」が助けてくれます。その上、テキスト絵本1を開けたとたんから、「えっ、警官は policeman, 消防士は fireman じゃないの?」「昔習った英語と違う!」という発見があるかもしれません。女性解放運動の結果、また女性もこうした職業に就く時代の流れと共に、「英単語」も変わってきています。「小児科のドクターが、白衣を着ていない」ことに注目するのも異文化教育になります。

テキスト絵本10や25の子どもの遊具の名前など、中学の教科書では学ばなかった語を知るのは大人にとっても楽しい勉強になりますね。

**Q8：『はじめての英語セット』で基礎の英語学習が終わった場合、あるいは並行して、どのような発展的な学習や遊びが考えられますか？**

**A8** 英米の子どもたちの常識でもある伝承童謡(Nursery Rhymes/Mother Goose)の絵本の中から短い簡単なものを選んで読んだり、音声(テープやCD)を聞いたりすると楽しいでしょう。英米の子どもたちの文化も学べます。

エリック・カール作のやさしい教育絵本の音読もいいですね。両者に共通するのは、文が短く、リズムカルで繰り返しが多く、パターンが決まっていて単語が少しずつ変化していくこと。『はじめての英語セット』のテキスト絵

本で慣れた「文章パターンの提示」と似ているので、違和感なく入っていけるのではないのでしょうか。文中に絵の混じった rebus books (リーバスブック:判じ絵)もお勧めですね。

**Q9： 付属の ポケットチャートカードセット: 絵単語カード(Pocket Chart Cards: Picture Words)では、同じ絵のカードに、文字がなくイラストだけの面と、イラストに文字の添えてある面との両方があります。どのように使い分けるとよいですか？**

**A9** 幼児が絵の示すことば(単語)を覚えるには、絵だけでもよいでしょう。お母様方の中には、「文字があると、それを読んでしまい、本当に単語を空で覚えているのか不安」と思う方がいるかもしれません。…が、1文字1音を表す表音文字の平仮名やカタカナと違って、英語ではアルファベット文字が書いてあるからといって、スペリングの決まりを知らなければ、その絵の単語がすぐ読めるわけではありません。最初は「絵の下に何か黒いものがある」くらいの認識かもしれません。

では、文字の書いてある面は必要ないかという、決してそうではありません。いろいろな効力があります。学習が進むと、子どもたちが自分で気づいていきます。

平成 24 年度に文部科学省によって作成、配布された DVD、「小学校版 新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国語科の授業実践事例映像資料 2」の中での 5、6 年生の児童の「振り返り発表」には、目を見張るものがあります。かつて、「小学校英語には文字はいらない」と言われた時代もありましたが、この DVD の中では、文字が入った絵カードが使われています。特に、文字や、スペリングについての学習がなされているわけではありませんが、5 年生の “I like apples.” の単元では、数人の男子が、授業の終わりの「気づき」の発表で、興味深い発言をしています。「英語では、果物が 2 個以上ある時は、『ス』とか『ズ』とか言っている。その時は(絵カードの)言葉の最後に『s』が付いている。」また、好きなおやつ絵カードが黒板に張られた授業では、「英語には、potato chips のように間に隙間のある語(two words のこと)とない語がある。2つの語に分かれている時は、それぞれの語に意味があることが分かった。」と発言しています。

こうしたことは、従来の「児童用入門期の英語教育メソッド」のように「音声」のみで学んでいたのでは全く気付かないことですね。子どもは、「音・絵・文字」を同時に聴覚、視覚をとおして「英語」に触れることによって、「英語の決まり(文法)」を自ら学び取っていています。子どもの潜在能力は、素晴らしいですね。

**股野先生、ありがとうございました。『はじめての英語セット』の次のステップや、発展的な英語の学習としておすすめ絵本は次に特集します。ご期待ください。**